

寄稿

歴代大学院
研究科長からの
寄稿



歴代大学院研究科長

卒業式は エルガーの曲 に合わせて



初代 研究科長
中西 守

本学大学院薬学研究科は新制度の六年制薬学部卒業生の誕生に引き続き全国一斉に修業年数4年間の博士課程として発足した。少子高齢化の社会においては、大学院薬学研究科が目指している高度・先端的な医療薬学の教育・研究の推進ならびに人材の養成と社会への還元がいっそう重要性を増していることは申すまでもない。博士課程修了者の誕生には大きな期待が集まっている。

ところで、米国では大学などの卒業式や学位授与式を“Commencement”と呼んでいる。“commence”は「開始する」とか「始める」という英語である。卒業式“Commencement”は社会人としての仕事を開始し、始めることを祝うのである。下図はカリフォルニア州立大学バークレー校(UCBerkeley)の写真であるが、UCBerkeleyを始めとした多くの米国の大学で、卒業式には英国人エルガーの威風堂々(Pomp and Circumstance)がBGMとして使用されている。カリフォルニア州立大学はUCBerkeley校を本校として州内には10校の大学がある。UCBerkeleyの創設は1868年であり、愛知学院大学の創設が1876年(明治9年)なのでほぼ同時期に大学が設立されたといえる。また、愛知学院大学でもエルガーの“威風堂々”を卒業式のBGMとして使っている。

さて、六年制薬学部の場合には薬剤師の資格を修得した後に、大学院薬学研究科で、高度・先端的な医療薬学の教育と研究を修得するものである。米国の“Commencement”の気持を強く持ち新時代の医療薬学を先導する人材が本学薬学研究科からも多数輩出することを強く願っている。

